

### 3-5 第5分科会「グローバル化時代の秋大生の衣食」まとめ

担当 内田昌功

分科会テーマ	グローバル化時代の秋大生の衣食
担当者・メンバー	担当者 内田昌功 メンバー(12名) 宇佐美貴章、高橋真理、秋山なつみ、木村汐里、佐藤圭、佐藤宏美、菅原南、園田えみ、戸ヶ瀬玲奈、奈良恵里香、松本翔、武蔵幸花
活動の概要	衣服や食というごく日常的なものを材料として、現代社会を特徴付けるグローバル化の動きを確認し、理解を深めることにしました。普段着ている服や食べているものがどこで作られたものか調査し、統計を取って、グローバル化の中にある私たちの生活を浮かび上がらせました。
活動のプロセス	<p>現代はグローバル化の時代と言われています。政治や経済や文化は国境を越えて展開し、私たちの生活はもはや世界の動きと無関係ではありえません。しかし一方で私たちは日常、グローバル化について深く考え、意識することは多くはありません。そこで食事や衣服というごく身近な生活の側面に注目し、グローバル化の実態について調べてみることにしました。</p> <p>授業ではまずグローバル化の概念と仕組みについて学びました。またグローバル化の歴史、なぜ近年グローバル化が急拡大しているのか、秋田の人口流出とグローバル化の関係などについて勉強しました。</p> <p>グローバル化について基礎知識を身につけた上で、次に衣服と食事の調査を行いました。衣服については学生本人と友人の所有する衣服について調べ、1000件近い統計を取りました。食事については、各自が2週間にわたり消費した食材の原産国を調べ、統計を取りました。</p> <p>その結果、衣服の実に99%が中国をはじめとするアジアで生産されていること、食事においては意外と国産比率が高いことなどの事実が浮かび上がりました。また食材の中では魚介類の海外産比率が高いことがわかりました。日本の伝統的な食文化ともいえる魚を食する文化が、グローバル化によって支えられていることは新鮮な発見でした。</p> <p>最後に以上の調査をふまえて、今後の私たちの生活とグローバル化について議論を行い、理解を深めました。肯定的な意見がある一方、否定的な意見も多く、結論はまとまりませんでした。グローバル化が生活と密接に、かつ複雑に関わっており、単純にはとらえきれないことは理解できました。これを機会に今後もグローバル化について考えて生きていきたいと思えます。</p>

まとめ	<p>衣服の多くが海外で作られていることはある程度想像が付きましたが、90%以上という数字にはあらためて驚かされました。実際に数字を出してみると、「グローバリゼーションの時代」という言い方もけっして誇張ではないということがわかりました。一方で、魚介を食べるという日本の食文化の特徴がグローバリゼーションによって支えられているという結果からは、グローバリゼーションの別の側面を知ることができました。グローバリゼーションは文化をボーダレスにするとともに、地域的な文化を支え、さらに際立てる作用もあるのです。</p> <p>また生産拠点の中国への移動という流れが、最近では中国から他のアジアへ移動し始めていることもわかりました。グローバリゼーションは思っていた以上に複雑で、多様で、動きがあるということがわかります。</p> <p>グローバリゼーションは、現代社会を理解する上で、またこれからの時代を見通す上で欠かせない視点です。ささやかな学習と調査ではありましたが、グローバリゼーションを理解するための入り口には立つことはできたと思います。</p>
-----	--